

大雨に対する農作物の事後対策

令和7年7月18日

農業技術課

1 気象概況

7月14日からの低気圧の接近に伴い、韮崎市では4日間で累計218mmと、地域によっては平年の7月1ヶ月分の降水量を上回る降雨がありました。

今後、大雨による農作物への影響が懸念されるため、農作物の管理を徹底してください。

降水量合計 (mm) (2025/7/17 17:00現在)

日	甲府	大泉	韮崎	南アルプス (西野)	勝沼	富士川	南部	河口湖	山中
7月14日	50	16	90	79	3	78	67	4	23
7月15日	49	81	95	64	38	86	135	48	65
7月16日	26	19	29	29	30	38	95	23	27
7月17日	1	2	4	6	1	8	10	1	5
合計	125	117	218	178	71	210	307	76	119

2 技術対策

果 樹

<共通>

- ① 園地が滞水している場合は、速やかに排水対策を行う。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は、土寄せを実施する。

<立木果樹>

- ① 収穫前の園で、果実に裂果やキズ果の被害が発生している場合は、果実腐敗病の発生が心配されるため、防除暦を参考に果実腐敗病防除剤による防除を徹底する。
- ② 降雨により農薬の残効が短くなることが懸念されるので、シンクイムシ類や果実腐敗病等の防除剤を追加散布する。
- ③ 降雨により落果した果実は、果実腐敗病等の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか土中に埋める。
- ④ 樹上でも裂果等の損傷が大きく腐敗の恐れのある果実は除去し、落果したものと同様に処分する。
- ⑤ 有袋栽培のモモで、二重袋の外袋など袋が脱落したものは、袋をかけ直す。

<ブドウ>

- ① 裂果の被害が発生している場合は早めに摘粒する。
- ② ブドウ黒とう病の発生している園では、発生している部位の周囲に感染が広がっていることが多いため、発生部位の周囲等を丁寧に観察し、病斑が見られる葉や新梢、果実、巻きひげは見つけ次第取り除き、園外に持ち出し処分する。

野 菜

- ① 滞水している場合は、速やかに排水を行う。
- ② 茎葉の損傷や泥のはね上がり等により、疫病、菌核病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従って薬剤を散布し、病害の発生を予防する。
- ③ べと病や灰色かび病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従い予防散布を徹底する。
- ④ ナス、キュウリ、トマト等は、奇形果や傷んでいる果実を早めに除去し、樹の負担の軽減を図る。

花 き

- ① 滞水している場合は、速やかに排水を行う。
- ② べと病や灰色かび病など病害の発生が懸念されるため、防除基準に従い予防散布を徹底する。

水 稲

- ① 浸水や冠水した水田では、溝切り、水路のゴミの除去等により、早急に濁水の排水に努め、新たに水を灌漑する。

大 豆

- ① 滞水している場合は、速やかに排水を行う。

畜 産

- ① 飼料作物
 - ・冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。
- ② 家畜
 - ・個体観察の徹底、疾病の早期発見と蔓延防止に努める。
- ③ 畜舎
 - ・冠水等によって変質した飼料は廃棄し、飼料タンク内の点検や飼料庫の通風を促す。
 - ・畜舎、牧柵、防鳥ネット等の施設の破損、汚染がないかを確認し、必要に応じて補修、洗浄、消毒を行うよう努め、疾病等の未然防止に努める。
 - ・堆肥舎、牛舎から流出した堆肥や家畜ふんは、速やかに回収し消石灰等散布を行い、悪臭等の発生抑制に努める。
 - ・雨水等の流入により濡れた敷料は除去し、乾燥した敷料に交換する。